

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 263人 国語B 263人

② 数学A 264人 数学B 264人

③ 理科 264人

5 留意事項

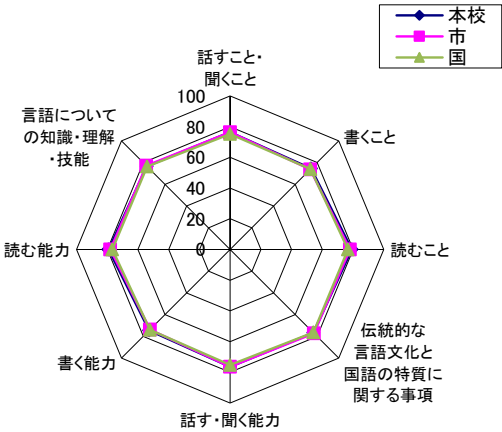
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

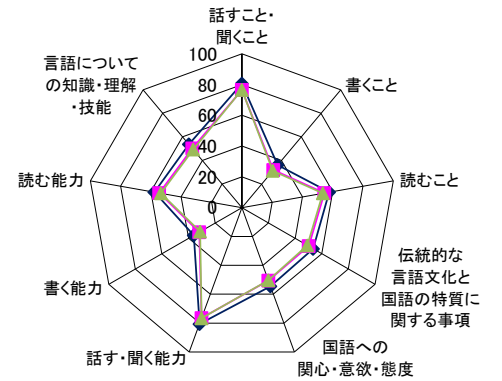
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.4	76.4	75.2
	書くこと	74.6	73.7	73.9
	読むこと	79.2	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.6	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.4	76.4	75.2
	書く能力	74.6	73.7	73.9
	読む能力	79.2	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	76.6	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.6	76.5	76.6
	書くこと	36.1	31.9	31.3
	読むこと	57.7	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.6	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	54.5	50.6	50.3
	話す・聞く能力	80.6	76.5	76.6
	書く能力	36.1	31.9	31.3
	読む能力	57.7	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	53.6	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

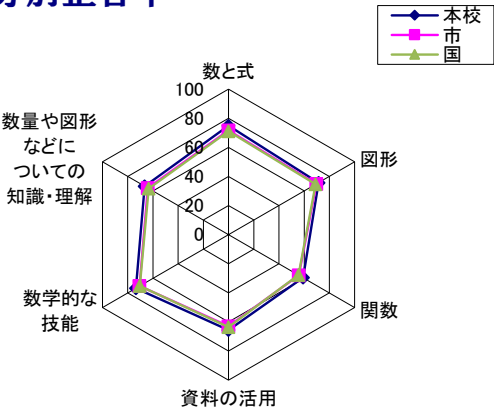
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aでは全国平均を1.2ポイント、国語Bでは全国平均を4.0ポイント、市平均を4.1ポイント上回っている。特に国語A「話し合いの話題や方向を捉える」では2.5ポイント、国語B「質問の意図を捉える」では4.8ポイント全国平均を上回っている。 ●国語A「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」では0.8ポイント全国平均を下回っている。	・話し合い活動を通して、話の展開を確認しながら聞いたり、自分の考えと比較して聞いたりするという言語活動を繰り返し行い、論旨を的確に捉えて表現できるスキルを身に付けさせたい。
書くこと	○国語Aでは全国平均を0.7ポイント、市平均を0.9ポイント、国語Bでは全国平均を4.8ポイント、市平均を4.2ポイント上回っている。特に国語A「書くこととする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する」では2.5ポイント、国語B「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」では5.3ポイント全国平均を上回っている。 ●国語A「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」では4.2ポイント全国平均を下回っている。	・文章の構成力向上のために、意見と根拠を明確に区別したり反論を推測したりするなど、論証の組み立て方のスキルを身に付けさせたい。 ・意見文を書く上で、単に主張を並べるのではなく、説得力のある構成や反対意見への反証の方法などを具体的に指導していく。
読むこと	○国語Aでは全国平均を2.5ポイント、市平均を1.2ポイント、国語Bでは全国平均を4.2ポイント、市平均を3.2ポイント上回っている。特に国語A「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」では4.7ポイント、国語B「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」では7.2ポイント全国平均を上回っている。 ●国語A「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」では、全国平均を0.6ポイント上回るだけに止まっている。	・説明的文章の読み取りにおいて、文章構成と要約のみに終わらずに、必要な情報を的確に選択・把握する活動を繰り返し指導していく。 ・必要な情報を的確に選別するために、筆者の主張を意識しながら読み、読みながら考察する場面を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは全国平均を0.1ポイント、国語Bでは全国平均を4.4ポイント、市平均を3.4ポイント上回っている。特に国語A「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」では8.5ポイント、国語B「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」では4.4ポイント全国平均を上回っている。 ●国語A「行書の基礎的な書き方を理解して書く」では5.7ポイント下回っている。漢字の書き取りに関する全ての問題で全国平均を下回っており、苦手な傾向にある。	・漢字については新出漢字のテストだけでなく既習漢字の反復確認を適宜行う。特に漢字を書くことを苦手と感じている生徒も多いため、漢字練習ノートやプリントを活用し、定着を図る。 ・書写の時間以外でも楷書・行書の違いや特徴について指導する機会を設け、既習内容の確認を行っていく。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

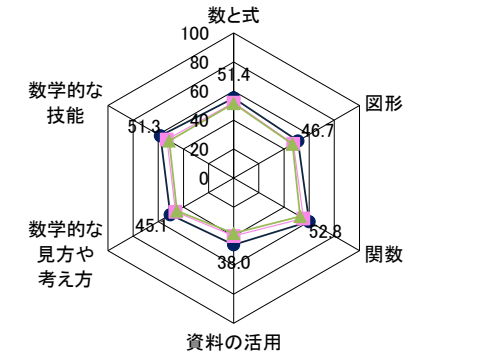
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	74.9	71.7	71.1
	図形	71.4	69.7	69.1
	関数	59.1	55.8	55.5
	資料の活用	65.6	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	73.5	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	66.5	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	55.1	52.0	51.4
	図形	51.1	47.3	46.7
	関数	59.9	55.4	52.8
	資料の活用	45.9	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	50.4	46.3	45.1
	数学的な技能	58.3	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

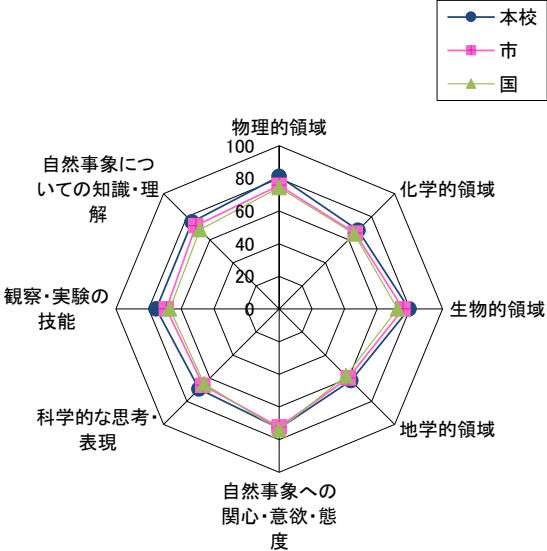
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学Aでは全国平均を3.8ポイント、市平均を3.2ポイント、数学Bでは全国平均を3.7ポイント、市平均を3.1ポイント上回っている。特に、数学A「絶対値の意味の理解」では11.3ポイント、「数量の大小関係を不等式で表す」問題では13.4ポイント、全国平均を上回っている。 ●数学A「数直線上に示された負の数を読み取る」問題では、全校平均を2.2ポイント下回っている。	・着実に数直線の読み取りができるように繰り返し指導していく。 ・1年次より継続してきた小テストや確認テストを毎時間実施することで、計算力を身に付けさせたい。 ・時間を設定して計算する学習を取り入れ、不注意による計算ミスの減少を図りたい。
図形	○数学Aでは全国平均を2.3ポイント、市平均を1.7ポイント、数学Bでは全国平均を4.4ポイント、市平均を4.5ポイント上回っている。特に、数学A「折り目の線の作図と角の二等分線の関係」の問題では10.3ポイント、数学B「証明されたことから新たにわかることを選ぶ」問題では8.4ポイント、全国平均を上回っている。 ●数学A「半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く」問題では、全校平均を2.9ポイント下回っている。また、無回答率も全国平均を1.3ポイント下回っており、用語の習得が苦手な傾向にある。	・図形の性質を見い出したり、説明したりしながら、性質の成り立ちについて考える活動を行うことで理解を深めさせるとともに、図形の性質を正確に身に付けさせるためにドリル学習を繰り返し実施していく。 ・じっくり考える証明の学習や記述式の解答が必要な問題を意図的に取り入れ、思考力・表現力の向上に努めたい。
関数	○数学Aでは全国平均を3.6ポイント、市平均を3.7ポイント、数学Bでは全国平均を7.1ポイント、市平均を4.5ポイント上回っている。特に、数学B「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明する」問題では、全国平均を7.6ポイント上回っている。 ●数学A「一次関数が表すグラフを選ぶ」問題では4.8ポイント、「一次関数の意味の理解」では3.4ポイント、全校平均を下回っている。	・グラフ、式、表の関連を押さえた上で、問題演習の時間を多くとり、知識の定着を図っていく。 ・関数の意味を具体的な事例を使って説明できるよう指導するとともに、関数に対する理解を深めさせたい。
資料の活用	○数学Aでは全国平均を2.1ポイント、市平均を2.7ポイント、数学Bでは全国平均を7.9ポイント、市平均を6.1ポイント上回っている。特に、数学B「与えられた情報を分析し、起こりやすさの傾向を捉える」問題では、全国平均を6.8ポイント上回っている。 ●数学A「与えられた資料から中央値を求める」問題では、全校平均を4.3ポイント下回っている。	・生徒が用語を意識し意味を理解できるよう、授業中に生徒のつぶやきを教師が用語に言い換えるなど、指導の充実に努める。 ・確率・統計の学習を通して、その法則等に気付かせ、日常生活に生かせるように指導していく。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	81.2	75.7	74.4
	化学的領域	68.2	65.8	65.0
	生物的領域	79.5	75.9	72.5
	地学的領域	62.1	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	73.1	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	69.3	66.0	64.9
	観察・実験の技能	75.3	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	75.4	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○全国平均を6.8ポイント、市平均を5.5ポイント上回っている。特に、「オームの法則を使って、抵抗の値を求める」問題では、全国平均を16.3ポイント上回っている。 ●全国平均と比べて下回っているものはないが、「光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用する」問題では、全国平均を0.7ポイントに上回るだけに止まっている。	・「光の反射や屈折」については、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折する時の幾何光学的な規則性について予想を立てる学習を繰り返し行っていく。 ・目に見えるものは全て光を出していることを理解させるために、実験を多く取り入れていく。
化学的領域	○全国平均を3.2ポイント、市平均を2.4ポイント上回っている。特に、「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する」問題では、全国平均を8.4ポイント上回っている。 ●全国平均と比べて、「探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探求を深める」今代では、全国平均を0.9ポイント下回っている。また、「質量パーセント濃度」を求める問題では、全国平均を上回っているものの正答率が5割台となっており、濃度を求める計算が苦手な傾向にある。	・事象に対して疑問を提起し、課題を見つけ、その課題を実験を通して解決していくという学習の流れで実験を行うことで、生徒の探求心を高めていきたい。 ・実験の方法について、「なぜその操作を行うのか」なさまざまな活動においてその理由を説明できるよう、基礎・基本の定着を図っていく。 ・計算力を高めるために反復練習を行っていく。
生物的領域	○全国平均を7.0ポイント、市平均を3.6ポイント上回っている。特に、「反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画する」問題では、全国平均を8.8ポイント上回っている。 ●全国平均を下回っているものはないが、「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の要因を指摘する」問題では、全国平均を6.4ポイント上回っているものの、正答率が3割に満たないことから、科学的な思考・表現が身に付いていない。	・思考力、判断力、表現力を育成するために、話し合いやレポート作成、発表する場を設定し、色々な生物の共通点や相違点を見出し、それを基にして分類するなど、見通しをもって整理する力を身に付けさせたい。
地学的領域	○全国平均を4.3ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。特に、「地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識」の問題では、全国平均を10.4ポイント上回っている。 ●全国平均を下回っているものはないが、「太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識」の問題では、全国平均を0.5ポイント上回るだけに止まっている。	・日本の天気に影響を与える気団の性質や季節風の発生などの特徴的な気象に、海洋が関わっていることを理解させたい。 ・気象に対する興味・関心を高めさせるために、年間を通して特徴的な気象現象が現れた時には、授業の中で取り上げていく。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【良好な状況が見られた項目】 ○「自分によいところがあると思いますか。」についての肯定的回答が全国平均より4.7ポイント上回っており、自己肯定感が高い傾向が見られる。 ○全国平均と比べて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」についての肯定的回答は、3.4ポイント上回っており、生徒会主催の「いじめ根絶集会」や「イヤな思い調査」など、学校全体でいじめ問題に真摯に取り組んできた成果であると思われる。 ○「家で学校の授業の予習復習をしていますか。」についての肯定的回答が12.9ポイント、「家で予習復習やテスト勉強などの自主学習において教科書を使いながら学習していますか。」についても5.8ポイント、全国平均を上回っており、家庭学習の習慣が身に付いてきている様子が伺える。これまで、生徒向けに発行している「学習だより」の中で、宿題や授業で習ったことの復習の大切さや勉強の仕方についての助言を積み重ねてきたことで、授業を理解するためには、教科書を用いた予習復習を計画的に行うことが必要であるとする生徒が増えてきたのではないと思われる。
【課題が見られた項目】 ●「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」についての肯定的回答は全国平均と同程度であったが、県平均を5.5ポイント下回っている。授業の中で、言語活動の充実を図った授業展開を積極的に取り入れているものの、生徒の多様な意見や考え方を取り上げることについては、教師のコーディネート力が十分とは言えない。 ●「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」についての肯定的回答は全国より3.3ポイント下回っているが、昨年度より1.6ポイント、一昨年度より4.6ポイント高くなっており、改善傾向にある。今後とも、積極的に地域の行事やボランティア活動についての呼びかけを継続していく必要がある。

宇都宮市立陽東中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら進んで表現できる生徒の育成	①基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	①調査教科の全ての領域において、平均正答率が全国及び県、市平均を上回っており、基礎・基本的な知識及び技能は身に付いていると思われる。 ②習得・活用・探求という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら問題を見い出して解決策を考えたりする「深い学び」の実現には至っていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」についての肯定的回答が7割台となっており、不十分である。	多様な意見や考え方を深めたり、広げたりすることを意識した授業のコーディネート力	・話し合い活動を通して、整理し、発表するなどの指導過程を工夫し、自分の考えを深めたり広げたりする場を意図的に設定する。 ・個人で考えたことを意見交流したりしながら、新たな考え方に気付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする活動を的確に取り入れる。